

第3回 北海道眼疾患カンファレンス

2021年6月5日[土] 15:00~17:30

| 配信 | WEB zoom webinar [事前登録が必要です]

| 会場 | センチュリーロイヤルホテル 20階『グレイス』

先着30名 ※ご来場での参加をご希望の先生は担当者までご相談ください

主催▷千寿製薬株式会社 SENJU 後援▷北海道眼科医会

講演Ⅰ 15:00 ┆ 15:50	『感染性角膜炎のピットフォール』 ◇座長: 笹本 洋一 先生(ささもと眼科クリニック 理事長) ◇演者: 戸所 大輔 先生(群馬大学大学院医学系研究科 脳神経病態制御学講座 眼科学 准教授)
講演Ⅱ 15:50 ┆ 16:40	『3次元細胞培養モデルを用いた抗緑内障薬の 眼窩脂肪及び線維柱帯への影響の検討』 ◇座長: 日景 史人 先生(札幌医科大学 眼科学講座 講師) ◇演者: 大黒 浩 先生(札幌医科大学 眼科学講座 教授)
講演Ⅲ 16:40 ┆ 17:30	『ゲノム医療の最前線 ~網膜ジストロフィから滲出性加齢黄斑変性まで~』 ◇座長: 石田 晋 先生(北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室 教授) ◇演者: 西口 康二 先生(名古屋大学医学部医学科・大学院医学系研究科 眼科学・感覚器障害制御学教室 教授)

事前登録案内

■下記URLもしくはQRコードから、オンラインで事前にご視聴登録をお願いいたします。

事前 登録方法	事前登録 URL	https://zoom.us/webinar/register/WN_idaB5DF8SwOqTHIAgox8ag
	お申込み 期限	2021年6月4日(金) 23:59まで



※パソコンまたはスマートフォン・タブレットにてご登録ください。

※視聴用のURLは、ご視聴登録完了時に画面に表示されます。また、登録時に配信される登録完了メール内の「ここをクリックして参加」よりご視聴いただくことも可能ですので、登録完了時に表示される画面および、登録完了メールは大切に保管くださいますようお願いいたします。

ご視聴に関するお問い合わせ(当日サポート)

千寿製薬株式会社

北日本支店 札幌グループ

駒田大輔 ▶ ☎080-8541-0025 ✉ d-komada@senju.co.jp

田村直也 ▶ ☎080-8926-3471 ✉ n-tamura@senju.co.jp

森下順司 ▶ ☎080-1472-6765 ✉ junji-morishita@senju.co.jp

座長／笹本 洋一 先生(ささもと眼科クリニック 理事長)

『感染角膜炎のピットフォール』

演者 戸所 大輔 先生(群馬大学大学院医学系研究科 脳神経病態制御学講座 眼科学 准教授)

ご 略 歴

1997年 群馬大学医学部卒、群馬大学眼科入局	2008年 群馬大学附属病院眼科 助教	2015年 群馬大学附属病院眼科 講師
1999年 佐久総合病院眼科	2009年 スケベンス眼研究所	2017年 群馬大学医学部眼科 准教授
2001年 群馬大学附属病院眼科	2010年 マサチューセッツ眼科耳鼻科病院	
2002年 群馬大学医学部細菌学教室(大学院)	2011年 群馬大学附属病院眼科 助教	

感染性角膜炎の原因となる微生物は細菌、抗酸菌、真菌、ウイルス、原虫などきわめて多岐にわたる。診断の第一歩は患者背景および臨床所見から起炎微生物を推定することだが、治療成績を高めるためには塗抹鏡検、培養、PCR、病理組織診などの検査を駆使して起炎菌を同定し、正しく診断することが重要である。典型例は「見た目」による臨床診断でも治療が可能だが、それだけでは非典型例に遭遇したときに思わぬ落とし穴にはまる。本講演では症例提示を通じて「見た目」による診断の危うさと、確実な診断へのアプローチ方法について解説したい。

講演 I

15:00~15:50

座長／日景 史人 先生(札幌医科大学 眼科学講座 講師)

『3次元細胞培養モデルを用いた抗緑内障薬の 眼窩脂肪及び線維柱帯への影響の検討』

演者 大黒 浩 先生(札幌医科大学 眼科学講座 教授)

ご 略 歴

昭和53年 4月 札幌医科大学医学部医学科入学	平成 1年 9月 札幌医科大学医学部眼科学講座(研究生)	平成 9年 3月 札幌医科大学医学部眼科学講座(講師)
昭和59年 3月 同卒業	平成 1年10月 留萌市立病院眼科医長	平成13年1月 弘前大学医学部眼科学講座(講師)
昭和59年 4月 札幌医科大学大学院医学研究科入学	平成 3年 4月 札幌医科大学医学部眼科学講座(研究生)	平成14年4月 弘前大学医学部眼科学講座(助教授)
昭和63年 3月 同修了	平成 4年 7月 米国フシントン大学眼科senior fellow	平成18年4月 札幌医科大学医学部眼科学講座(教授)
昭和63年 4月 札幌医科大学医学部生化学第一講座(助手)	平成 7年 7月 札幌医科大学医学部眼科学講座(助手)	現在に至る

昨今、PG剤による上眼瞼溝深化(DUES:Deepening of Upper Eyelid Sulcus)などの局所副作用が散見されることにより点眼薬の眼周囲への影響が少なくないことが明らかとなってきた。一方、緑内障点眼薬に房水流出に関連する薬剤による降圧機序として、現時点の教科書的にはPG剤は主にぶどう膜強膜経路、ROCK阻害剤は経シュレム管経路となっているが詳細に両経路を区別した検討はなされていない。今回我々の研究グループは新しい3次元細胞培養とそれぞれヒト眼窩部線維芽細胞および線維柱帯細胞を用いた疾患解析モデルを作成し検討したので、これらの研究成果と今後の展望について解説したい。

講演 II

15:50~16:40

座長／石田 晋 先生(北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室 教授)

『ゲノム医療の最前線 ~網膜ジストロフィから滲出性加齢黄斑変性まで~』

演者 西口 康二 先生(名古屋大学医学部医学科・大学院医学系研究科 眼科学・感覚器障害制御学教室 教授)

ご 略 歴

1999年 名古屋大学眼科医員	2011年 スイス・ローザンヌ大学、リサーチフェロー	
2000年 米国・ハーバード大学、メディカルフェロー	2012年 英国・University College London臨床研究員	
2002年 米国・ハーバード大学、リサーチフェロー	2014年 東北大学視覚先端医療学、准教授	
2007年 名古屋大学眼科助教	2020年 名古屋大学眼科 教授	現在に至る

レーザー先天盲を対象とした、初めてのアデノ随伴ウイルス(AAV)を用いた網膜遺伝子治療が2008年に報告されてから10年以上が過ぎた。この報告は、それまでまったく治療法がなかった最重症網膜ジストロフィに対して、治療により光感受度が改善し、暗所でのモビリティが向上することを示すセンセーショナルなものだった。これをきっかけに、世界中でAAVを用いた遺伝子治療の開発競争が始まり、治療対象疾患は網膜ジストロフィにとどまらず、レーザー視神経萎縮や滲出性加齢黄斑変性などにも広がり、今では様々な網膜疾患に対して数多くの臨床試験が行われつつある。しかし、同治療に関する臨床データが蓄積されるにつれ、次第に無視できない課題も明らかになってきた。本講演では、最初に遺伝子治療とは何か?という基本的なことを解説する。次いで、様々な網膜疾患に対して行われているAAV遺伝子治療臨床試験の最新の結果をレビューし、ゲノム編集の臨床応用などを含めて治療の今後の展望について考察する。

講演 III

16:40~17:30